

②自らのアイデアと努力で新たな道に挑む若者

ICT（情報通信技術）に関する知識や技術を生かすなど、起業意欲が旺盛で世界をマーケットとする新たな事業を起こし、イノベーションを生み出す挑戦者となっている。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 神戸市内に暮らす20代前半の女性。大学で情報通信の研究開発に取り組んでおり、特許を取った技術をもとに起業することをめざしている。
- 周りには起業をめざす友人が多く、国内外の大学生で構成される起業サークルに入って、切磋琢磨して競い合っている。サークルでは、バーチャルリアリティを使った会議システムでディスカッションしており、世界各国の人とまるでそこにいるかのようにコミュニケーションできる。おかげで、直接会ったことはなくても気心の知れた友人が何人もできた。

<起業家との交流>

- サークルの歴代の先輩が起業した会社の中には、上場している会社や世界へ展開している会社もある。先輩の後に続けたいと、いつもみんなで話している。今日は、その中の一人から体験談を聞く懇話会が開催された。
- 先輩の話では、起業には、アイデアに加えて、資金調達や販路開拓について周囲からサポートを受けるためのネットワークが大切だとのこと。この地域の金融機関でも、大学や行政、海外のベンチャーキャピタルと連携して、海外展開も視野に入れた起業の支援に力を入れ、イノベーションの芽を探しているそうだ。今度、起業支援セミナーが開催されるとのことなので、申し込んでおいた。

<ワーキングスペース>

- 先輩がオフィスに遊びにおいで、と誘ってくれたので行ってみた。そこは起業家同士がシェアしているオフィスで、シニアの方や高校生まで、いろいろな年代の人がいて、仕事の合間にはコミュニケーションスペースで情報交換していた。ネットワークも広がるし、ユニークなアイデアが生まれるようだ。
- オフィスで働いていた人の中には、一度は起業に失敗した人もいた。資金繰りに失敗したそうだが、その人の豊富な事業アイデアを評価したベンチャーキャピタルが、再挑戦への資金を出してくれたそうだ。

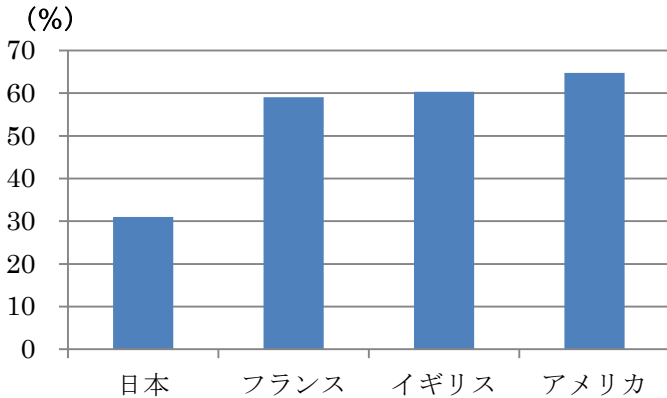
<事業コンテスト>

- 私が特許を取った技術は、世界中の人たちのコミュニケーションを大きく変えるものだと思う。来週、各国から参加者を集める「ワールドベンチャーアイデアコンテスト in Hyogo」で事業計画を発表する予定だ。このコンテストで表彰されると、国内外のスポンサー企業からの出資も受けられ、事業化に一步近づくことになる。去年は、大学の先輩が表彰され、卒業後すぐに起業して日本と海外を行き来している。
- 今、世の中にある技術は、私の親が学生の頃には実現していなかったものが多いと聞く。今度は、自分たちのアイデアや技術で、新しいものを世に出していきたい。

現状や課題

【起業家精神の国際比較】

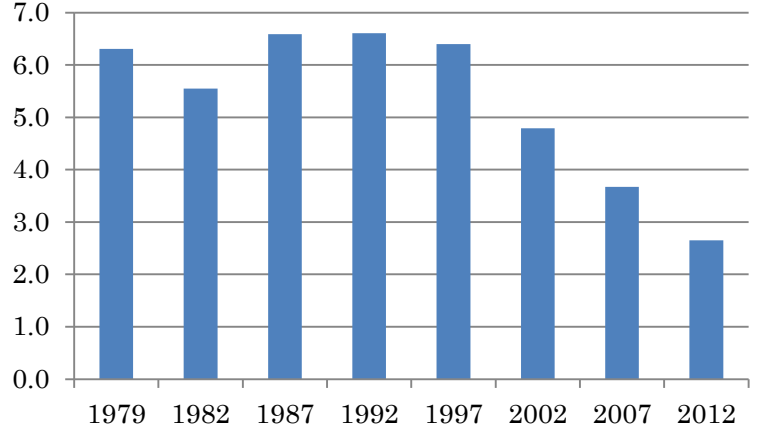
○起業を職業の選択肢と考えている人の割合



(出典：OECD「entrepreneurship at a glance 2015」を基に県ビジョン課作成)

【若手起業家（29歳以下）数推移（国）】

(万人)



(出典：中小企業庁「中小企業白書 2014」を基に県ビジョン課作成)

見えてきた兆し

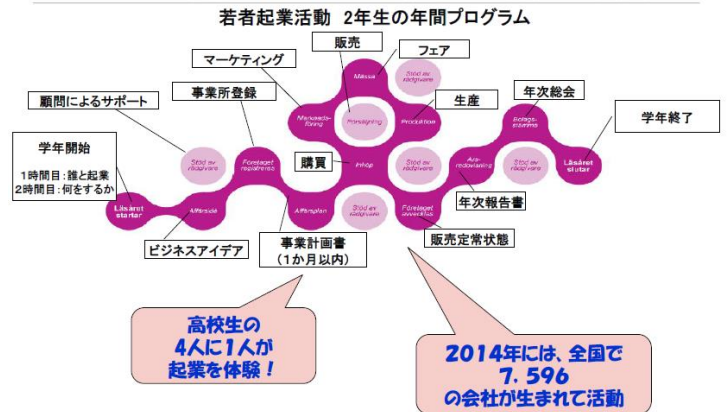
【起業コンテスト】



IT を活用したソリューションを生み出そうとする幅広い分野を対象としたコンテストを開催。選定されたスタートアップに限定して、3-4 か月の期間を定めた重点的なサポートプログラム（シリコンバレー型のシードアクセラレーションプログラム）を提供

(出典：KOBE Global Startup Gateway HP)

【高校生からの起業家教育（スウェーデン）】



(出典：㈱三菱総合研究所プラチナ研究会 2015年度第3回総会「スウェーデンの起業家教育」)

【学生ベンチャー】



(出典：大阪大学 HP)

【専門家等の意見】

○若者には、海外に出て行くなど積極的な人と、殻に閉じこもっている人がいるが、全員を殻に閉じこもっている人にしてはいけない。